第２学年Ｂ組　　道徳科学習指導案

１　主題名　　　「いのち」を考える　　　【Ｄ－（19）　生命の尊さ】

（教材名「奇跡の一週間」　出典：新しい道徳　２年）

２　生徒の実態とめざす姿

＜こんな生徒を＞　男子７名，女子11名

・２年生になり，一つ一つの行事を楽しく充実させようと前向きに行動する生徒

・「一度きり」の２年生というより，２回目の中学校生活という意識が強く，ただ何となく惰性で動いてしまう生徒

＜こんな教材で＞

この教材はホスピスで働く「私」と残された生命を全うしようとする末期がん患者「北村さん」の生き方に関する内容である。死を目前にした「北村さん」の生き方を通して，今を精一杯生きることの大切さや生命の尊さについて考えたい。死を待つのではなく，がんと闘いながら前向きに生きた北村さんから，かけがえのない限りあるいのちを輝かせて生きていこうという道徳的心情を養っていきたい。そして，今後の学校生活だけでなく，一度きりの人生をたくましく生きる生徒になってほしいと願う。

＜こんな手立てで＞

**【手立てⅠ　発問の工夫】**

生徒の価値観を揺さぶり，考えを深めるために、主発問から出た生徒の意見に対して、「北村さんは仕事を引き受けて後悔したのかな？」「自分だったら引き受ける？」「私は後悔したはずなのになぜ？」など，さまざまな立場で考えさせる問い返しの補助発問を用意する。

**【手立てⅡ　学習活動の工夫】**

自分の考えを周りに伝えやすく，かつ受け止められるようにするために，座席を一つの輪の隊形にして対話を行う。また，北村さんの生き方をより深められるようにするために，小グループでの対話を取り入れる。終末には，今あるいのちを輝かせたいという思いをより強くさせるために，北村さんの絵本の読み聞かせをする。

**【手立てⅢ　つなげる工夫】**

第１時では，自分のいのちと向き合う前に，「ずっとそばに」という絵本を使い，地球上に住む生き物たちのいのちについて考える。いのちといのちのかかわり合いの中で，人間は生活していることに気づき，自分自身のいのちについて，本時でさらに考えを深めたい。そして，いのちを輝かそうという思いをもったうえで，第３時を行う。ここではいのちの連続性について触れ，家族の思いを再確認し，周りからも大切にされるいのちを輝かせ，大切にしていこうとする心情をさらに育てたい。最後に，いのちの授業を通して，今生きていることへの感謝の思いにふれさせ，いのちについてさまざまな角度から考えられるようにし，社会の中でたくましく生きていく生徒を育てたい。

【総合的な学習の時間】(12月)

「いのちの授業」

外部講師の先生による講演会を通して，与えられたいのちを精一杯たくましく生きていこうとする意欲を高める。

【道徳】(12月)第3時

「妹に」

Ｄ-(19)生命の尊さ

妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して，生命のつながりやかかわり合いを考え，かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

【道徳】(１１月)本時

【道徳】(10月)　第1時

「ずっとそばに(絵本）」

Ｄ-(21)感動，畏敬の念

今ここにある「いのち」の偶然性，地球上に住む生き物たちの「いのち」を考えることで，自分のいのちを見つめる。そして，自然とのかかわりを多面的・多角的に捉え，自然との共生，畏敬の念を育てる。

＜こんな生徒に＞

・自分の「いのち」を，この先もより輝かせていきたいという思いをもった生徒

・今，目の前にある当たり前なことに感謝し，今の自分にできることを精一杯頑張り切ることができる生徒

３　本時の指導

（１）ねらい

　　　・末期がんを患いながらも，残された「いのち」を精一杯生きた北村さんの生き方を通して，今を生きることの尊さについて考え，かけがえのない「いのち」を輝かせて生きていこうという思いをもつことができる。（道徳的心情）

（２）準　備

　　　教師：大型絵本「うろこ雲」，ワークシート，（巨大心情円）　生徒：心情円

（３）学習過程

|  |  |
| --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指導の手立て  【◎：本時の中心となる手立て】 |
| ◇がんとホスピスの説明をする  「がん」っていう病気知ってる？  ・よくがんで亡くなるって聞くよ　・治る場合もあるらしい  ・タバコを吸うと……  ◇教材を読む  どうして，北村さんは童話の挿絵の依頼を，真剣になって引き受けたのだろう？  ・自分の絵のファンになってもらえてうれしかったから  ・ほとんど描くことができなくなってきたけど，これが最後の仕事だと思って，自分を奮い立たせた  ・自分の好きなことで，やりがいを感じたから……でも，自分だったら……  ・絵を描くことが，北村さんにとっての生きがいであり，自分らしさだったから  ・自分が生きている証みたいなもの  ・できないと諦めるよりも，自分の「いのち」を精一杯生きて後悔したくなかったから  ・中途半端で人生を終わりたくないし，北村さんが真剣だったからこそ，私も北村さんと真剣に向き合えたと思う  ・私の考えを変えた北村さんは，本当に「生きていた人」だったと思う  ◇授業の振り返りをする  ・一生懸命生きたいと思った  ・私も北村さんのように一生懸命に生きたい  ・ぼくは，いのちを大切にするのはもちろん，一度きりの中学校生活を精一杯がんばろうという気持ちになりました  ◇教科書の絵本を読み聞かせる | ・教材の内容をより理解させるために，がんやホスピスのことを説明する。  ・自分の考えを周りに伝えやすく，かつ受け止められるようにするために，座席を一つの輪の隊形にして対話を行う。また，北村さんの生き方についての考えをより深められるようにするために，小グループでの対話を取り入れる。(手立てⅡ)  ◎生徒の価値観を揺さぶるために，①自分だったら引き受ける？  ②北村さんは仕事を引き受けて後悔したのかな？  ③後悔したのに，なぜ私は真剣になって注文したの？  ④生きている証って？  など，さまざまな立場で考えさせる問い返しの補助発問を用意する。(手立てⅠ)  ・今あるいのちを輝かせたいという思いをより強くさせるために，終末に北村さんの絵本の読み聞かせをする。(手立てⅡ) |

（４）評　価

　　　・北村さんの生き方を通して，「いのち」の尊さや有限性に改めて気づき，一度きりの中学校生活をより輝かせていきたいという思いをもつことができたか。（振り返りから）